

① 業務改善事例	
職場ドック該当事例	
② 府民サービス向上事例	○

チーム名	やましろ「お茶育」広め隊
担当者 【所属名】	松浦佳徳(山城広域振興局農林商工部 企画調整室 農業・宇治茶振興担当) 樺沢美千代(山城広域振興局農林商工部 企画調整室 農業・宇治茶振興担当) 田中克典(京都府茶協同組合 事業課) 松石三重子(NPO法人日本茶インストラクター協会京都支部・宇治茶伝道師) 大橋敏裕(NPO法人山城こみねっと)

タイトル	宇治茶大好き！キッズ「茶ムリエ」検定 ～育てよう将来の宇治茶ファンを～
-------------	--

アピールポイント	宇治茶伝道師等と連携して、小学生を対象にキッズ「茶ムリエ」検定を実施し、子どもの頃からお茶に親しんでもらう「お茶育」推進の新たな取組です。
-----------------	---

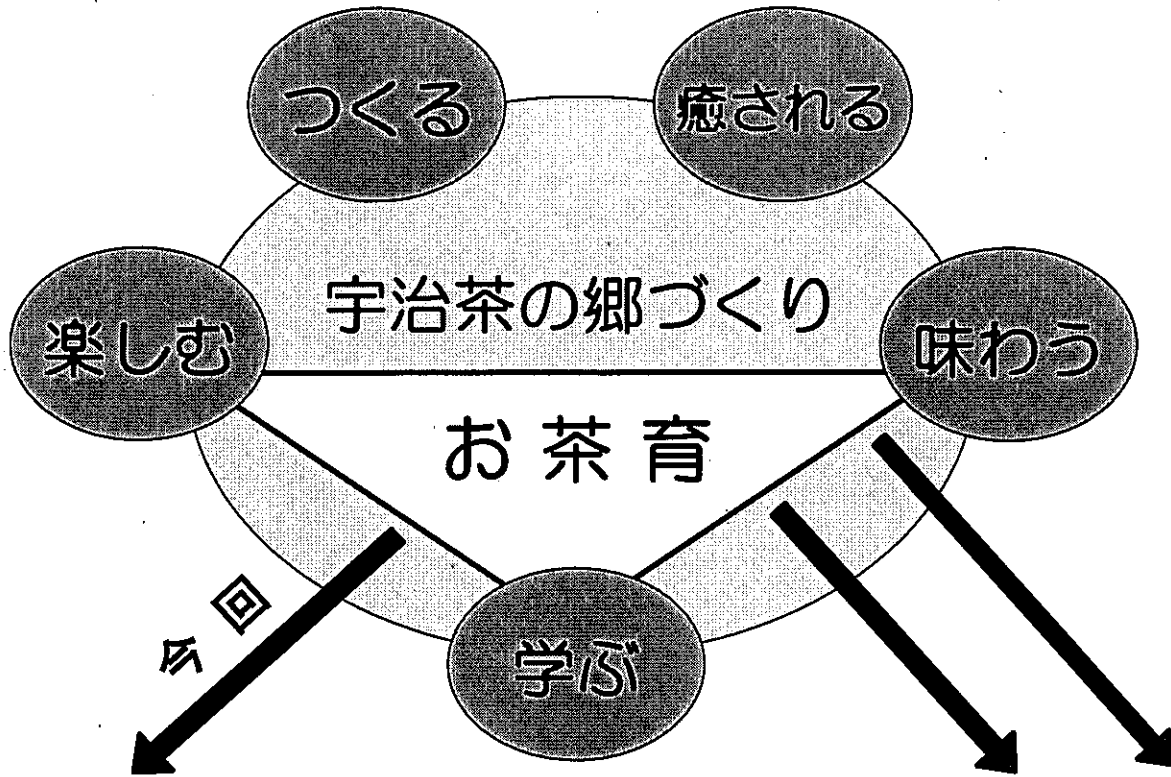
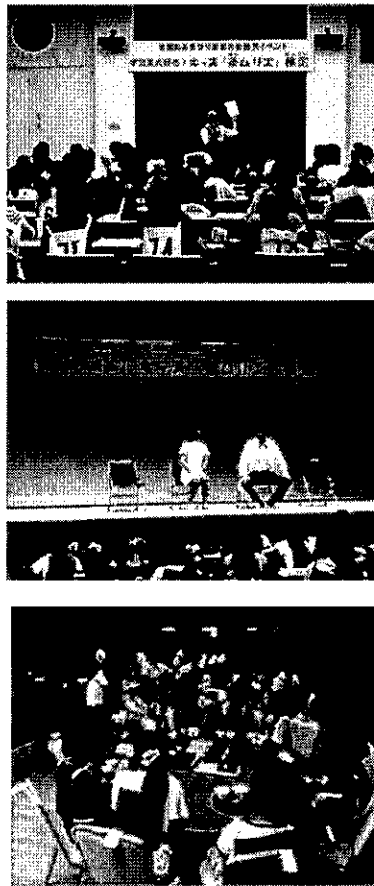
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○緑茶の消費量は、昭和40年代後半頃から徐々に減少し、家庭内では若い世代ほど少ない傾向。 ○平成18年度の宇治茶の郷づくり協議会設立により、お茶生産者や茶業関係団体等とともに、宇治茶の郷づくりのための様々な取組を実施。現在は、宇治茶の消費拡大にも取り組み、若い女性を中心とした宇治茶カフェの利用拡大、中高年を中心とした宇治茶歴史街道ウォークを実施。 ○今後の取組としては、将来の宇治茶ファンを育てるため、子どもの頃からお茶に親しんでもらう取組や若い世代に”ほんまもんの宇治茶”のおいしさや健康飲料としてのお茶の機能性を知ってもらう「お茶育」を推進する必要がある。
-----------	---

改善内容	<ul style="list-style-type: none"> ○参加対象は幅広く低学年も含めた小学3～6年生とし、会場は選択肢が広がるよう、開催日を変えた3地域(木津川市、京田辺市、宇治市)を設定。 ○山城教育局と市町村教育委員会に協力要請し、小学校において対象児童全員に開催チラシを配付し、効率的な広報活動を展開。 ○宇治茶伝道師や日本茶インストラクター、地域団体等と協働し、多彩なプログラムを構築。 ○検定内容は、宇治茶の知識を学ぶ「宇治茶大好き検定」やゲーム感覚で茶種の特徴を学ぶ「お茶の飲み分け検定」。 お楽しみプログラムは、検定のヒント満載の演劇、宇治茶をまるごと味わう茶団子づくり、美味しいお茶の淹れ方教室と、体験しながら楽しく宇治茶に親しんでもらえるよう企画。
-------------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○定員240名(80名×3会場)に対して、1.7倍強の411名から申込があり、どうしても参加したいと他の会場に申し込まれたり、キャンセル待ちを希望されるなど、熱心な参加希望者が続出。 ○検定は、事前にテキストを送付し学習してもらったことから、当日参加者223名中91名が合格され、キッズ「茶ムリエ」の認定証を授与。 ○参加者アンケートの結果も好評で、宇治茶が好きになったと約9割が回答。 ○関係教育機関や地域団体と連携できたことで、やましろ地域での宇治茶に関する様々な取組や「お茶育」推進への協働体制を確立。
-----------	---

今後の展開	○引き続き、宇治茶大好き！キッズ「茶ムリエ」検定を開催するとともに、中高生や若者向けのプログラムを構築し、更に「お茶育」を推進。
--------------	--

～育てよう将来の宇治茶ファンを～

☆中高生：お茶する生活と文化の継承

☆若者：お茶の機能性の理解

☆小学生：キッズ「茶ムリエ」検定の実施